



第2次世界大戦後の混乱期に、平和を願い仙台から行動を起こした人々がいたことをご存じでしょうか。1946年に発効した国連教育科学文化機関(ユネスコ)憲章の「心に平和の岩を築く」という精神に共鳴した仙台市民らは、その理念を地域で実現しようと翌47年、世界初となる民間ユネスコ団体「仙台ユネスコ協力会」を設立。現在の公益社団法人仙台ユネスコ協会です。設立の動きは瞬く間に広がり、今では国内に約300、世界に約4200もの協会・クラブなどがあります。「新しい感覚を持った人たちが仙台で市民活動を始め、世界的なつながりを生んだ歴史を知った時は驚いた」と話すのは副会長の内藤恵子さんです。

設立後は「事業活動の実施こそ最大のユネスコ啓発」をスローガンに、市民に開かれたボランティアな組織を目指し、さまざまな活動を展開しました。英語学校、青少年合唱隊、絵

公益社団法人仙台ユネスコ協会

心に平和守り続ける



①「ユネスコカレッジ」で名取市の名取トレイルセンターを訪れ、説明に聞き入る参加者＝2022年10月
②キリバスでの民間ユネスコ協会の設立支援で開かれたシンポジウム＝2月、仙台市青葉区のエル・パーク仙台



画・書道の会をはじめ、女性の社会進出を背景に教養を深める「ユネスコ婦人大学」など多様な集まりを次々に発足させます。

その後カルチャーセンターの登場といった時代の変化に伴い、随時役割の見直しを図ってきました。「婦人大学」は誰もが通える「ユネスコカレッジ」に発展し、地域の歴史や文化を学べる内容になっています。

「教育がユネスコ活動の原点」との考えからサマースクールなどを実施し、子どもたちの健全育成にも努めました。現在はユネスコが主導機関となり推進する持続可能な開発のための教育(ESD)に力を入れ、小中学校の活動支援や市民講座を行っています。

2018年の講座でキリバス共和国を取り上げたことを機に、協会は同国が直面する気候危機を共に考え行動する必要性を痛感。現地の民間ユネスコ協会設立に向け支援中で、宮城県とキリバスの学校間のオンライン交流にも取り組んでいます。

新型コロナウイルス禍以降は協会青年部主体のキャンプを中止せざるを得なくなりましたが、オンライン講座を充実化。海外の会員のつながりで青年部とイタリヤの学生の国際交流が実現するなど、世界中に広がるネットワークの強みを生かしています。

「身構えず楽しみながら活動に参加してもらいたい。世界に目を向ける窓口

公益社団法人仙台ユネスコ協会
所在地 〒980-0803仙台市青葉区国分町3の1の1、仙台第一生命ビル5階
電話 022(224)2581 (火・金曜の午前10時～午後4時)
電子メール sendai@unesco.or.jp
ホームページ 「仙台ユネスコ協会」で検索

参考情報

として利用してもらえたら」と内藤さん。平和を原点とする活動は、長い年月を経た今も脈々と受け継がれています。

(NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター 鶴巻 さやか)